

株式会社エクシング

「QOL向上」をめざしコンテンツ充実
利用者・スタッフの満足度を高める

大きな声で歌うことは喉や肺が鍛えられるなど健康増進にもつながるとして、カラオケは、介護施設でも人気のレクリエーションの一つ。株式会社エクシングは、コンテンツの一つとしてカラオケを提供するだけでなく、補完代替医療の補助ツールとして使用できるコンテンツ「健康王国」と専用機器をリリースしている。

体操や脳トレなど
多彩な音楽療養コンテンツ

株式会社エクシングという名は聞き覚えがなくても、「JOY SOUND」の名前は聞いたことがあるという人は多いだろう。同社は情報通信機器メーカーで知られるブラザー工業株式会社の子会社で、1992年に創業した。同社の代表取締役会長兼社長の神谷純氏は「当時はソフトウェアの自動販売機の開発を行っており、そのシステムと通信網を活用して世界初の通信カラオケを製品化し、事業がスタートしました」と経緯を

話す。

カラオケが身近なレジャーとして定着する一方、歌を歌うことの健康へのプラス面など知られるようになってきた。

「加えて、社会的にも高齢者の健康にかかわる課題を少しでも解決することは、大きな意義がある」として、同社は、介護施設などに向けたコンテンツと専用機器の開発に着手。カラオケ事業で培ったノウハウを投



▲「JOYSOUND FESTA 2」は音楽療養コンテンツ「健康王国」を最大限に活用できる機能が充実

入し、多くのコンテンツを集めた「健康王国」と、これを搭載する「JOYSOUND FESTA」を完成する。

現在の「健康王国」コンテンツは約800種類あるため、飽きる

【企業概要】

株式会社エクシング
〒467-0855
名古屋市瑞穂区桃園町3番8号
TEL: 052-825-1901
<https://xing.co.jp>

株式会社エクシング代表取締役会長
兼社長の神谷純氏





▲専用タブレットも用意しており、手で操作ができる



▲ユーザー会では、自施設以外での利用方法を聞けるため、「役に立つ」との声があがる

表 「健康王国」人気コンテンツ

●ラジオ体操(ご当地版)

施設で定番のラジオ体操の掛け声が各地の方言になっており、いつもと違うラジオ体操ができる人気

●個別機能訓練のポイント

専門職(PT・OT・ST)が監修した、個別機能訓練につながるコンテンツ。専門職が不在の施設での利用も活発

●パタカラ

人気の口腔体操「パタカラ」を、懐かしの楽曲と曲にマッチした映像を使って展開

●色々JOY体操

「おしりかじり虫」や「くまもん」などの振付で有名な振付師・南流石氏によるダンスコンテンツ。楽しく体操に取り組めると好評

●ヘルスケアアプリ

「JOYSOUND FESTA2」で新たに追加されたコンテンツ。元気度チェック・検定・脳トレなどが専用Padで手軽に操作できるため、送迎の待ち時間等の空き時間に活用する例が多い

コンテンツ制作では、エビデンスも重視する。神谷氏は「音や映像を使って楽しみながら、また飽きずに取り組んでいただけることを基本としていますが、医師や理学療法士などの専門職に監修していただいているものも多く、安心して使っていたいただきたい」と

コンテンツは、介護予防やリハビリなど、エンタテインメントを超えたコンテンツに広がりつつある。「弊社は既存のカラオケも含めて、老若男女さまざまの方が、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)人生の質)を高められるような製品・サービスを提供していきたい。介護施設の隣にカラオケボックスを併設して、地域の方がより交流できる場ができてほしいですよね」と、今後の展開に期待を寄せる。

配慮したのが、「あくまで現場のコンテンツ制作にあたり同社が

現場で使いやすい スタッフの負担も軽減

ことなく楽しめる(表)。カラオケなどは日々のレクリエーションで使い、口腔体操や健康体操などは、リハビリに活用することもできる。さらに、「朝の体操」など目的や状態に応じて、複数のコンテンツを組み合わせてオリジナルのレクリエーションプログラムを作成することも可能だ。

スタッフが使いやすい」ということ。リハビリのコンテンツを制作する際も、映像を見れば利用者がすぐにマネできるように動き方を工夫した。また形や動きだけではなく、どこの筋肉を使っているのかの解説も流れるので、動きの意味を理解した体操を行うことができる。導入施設からも、「スタッフが利用者の様子をうかがいながら対応できるので、効果的なリハビリの提供とスタッフの作業効率アップを同時に達成できる」と好評だ。

自信をみせる。加えて同社では、「健康王国」を導入した施設に対し、機械の操作説明だけでなく、具体的なプログラムの組み立て方や、新しく提供されたコンテンツの使い方をアドバイスしている。「健康王国」を導入している施設のユーザー会も開催されているので、施設間で使い方を相談し合うこともできる。「購入して終わりではなく、効果的に活用してもらおう仕組みづくりも大切にしています」と、神谷氏は力を込めて語る。